

食器製品の開発

藤 靖之、副島 潔、関戸正信

環境に配慮した新しいライフスタイルに合わせ、ポット&カップのセットを試作開発した。コンセプトに合わせ、生産性への配慮から注口とハンドルを一体成型とし、当センターで開発した低温焼成土を使用した。

1. はじめに

エコロジー、ロハスなど、環境に配慮したライフスタイルに合わせ、手軽にお茶やコーヒーを楽しめるような、シンプルで新しい感覚の器として、ポット&カップのセットを試作開発した。

素材や生産性についても環境負荷を考慮することとし、当センターが開発した燃料を30%カットできる「低温焼成土」を使用し、ポット胴部と注口やハンドルは一体成型として陶土の無駄や生産コストを下げられるようにした。また CAD/CAM 技術を利用してデザイン開発を行い、試作ロスを極力低減するよう配慮した。

2 デザインと試作開発

2.1 スタッキングポット

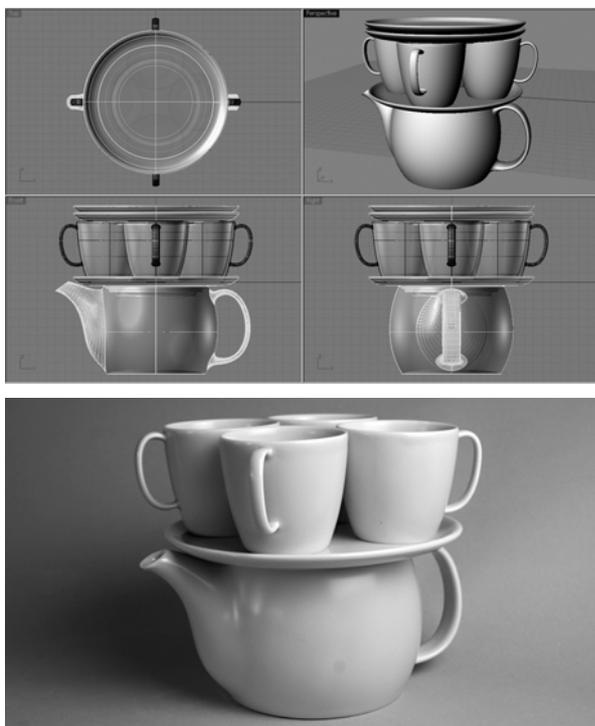


図1. スタッキングポット

大ぶりのポットに多用途皿と小さなカップ4個を組み合わせ、使用しない時でも場所を取らず、ユニークなスタッキングが行えるよう配慮した。(図1)

2.2 ペルシャ

正倉院収蔵品「白瑠璃碗」にヒントを得て、球面の面取りで表面に上品なパターンを与えたセット。ポットは上部を大きく開口し、使いやすさにも配慮した。(図2)

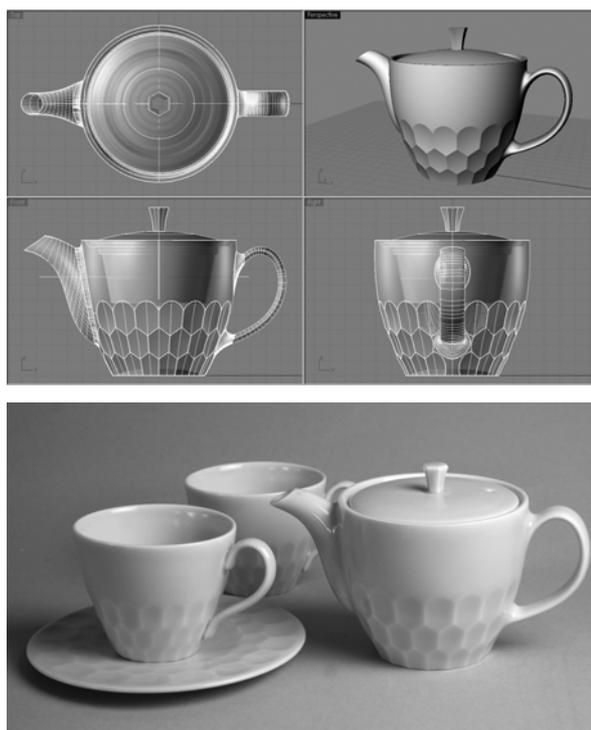


図2. ペルシャ

2.3 サッカーボール

「サッカーボール」で連想される正六角形と正五角形の組み合わせのパターンを、平面で再構成した球状を基本としてデザインしたセット。(なお、本品は手作業による型製作であり、ポットのハンドルと注口は別

成型で接着している。) (図3)

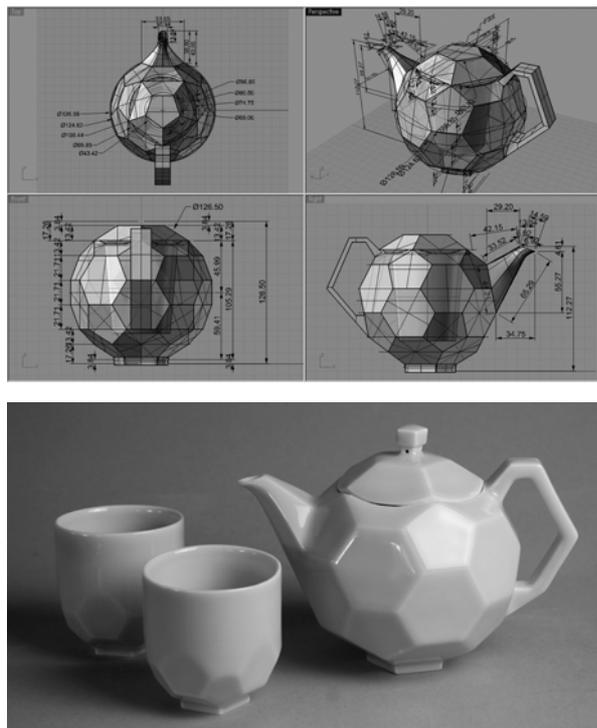


図3. サッカーボール

排泥鑄込用の型をNC切削により製作することは以前の研究開発でも行っていたが、今回取り組んだポット類は分割が複雑で深さも大きく製作が困難であった。分割法や切削手法を改善することで、試作を実現することができた。(図4)

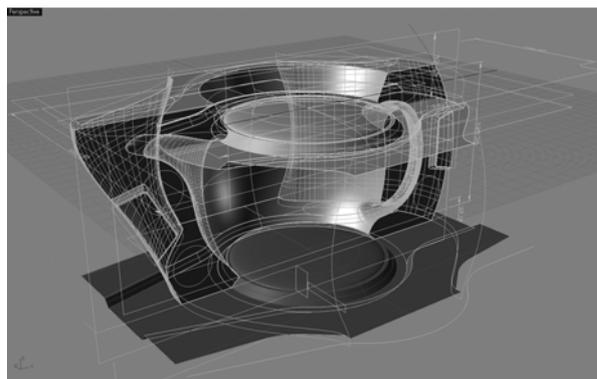


図4. 型分割の一例

3. まとめと今後の展開

一連のセットは「テーブルウェアフェスティバル2009」(平成21年1月31日～2月8日、東京ドーム、図5)および「第67回インターナショナルギフトショ

ー2009春」(平成21年2月3日～2月6日、東京ビッグサイト)において、肥前陶磁器商工協同組合のブースにて展示された。ポットの注口には当センターが開発した撥水加工技術により、注いだ際の「後引き」を抑えるよう処理されている。「サッカーボール」については、今後、商品化に向けた検討がなされている。



図5. 展示の様子